

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年1月19日

【評価実施概要】

事業所番号	0990200040		
法人名	特定非営利活動法人醍醐会		
事業所名	醍醐の森川崎グループホーム		
所在地	栃木県足利市川崎町2316 (電話) 0284-91-2707		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成20年11月17日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】(平成20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤10人(うち兼務2人), 常勤換算5.2人	

(2) 建物概要

建物構造	準耐火木造 1階建ての1階部分
------	--------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	・理美容代—2,500円 ・おむつ代—平均6,727円(4名使用) ・水道光熱費—10,000円 ・日用品費—4,500円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(40,000円)	有りの場合償却の有無	有(3ヶ月)
食材料費	朝食	300 円	昼食 500 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり		円

(4) 利用者の概要(平成20年10月31日現在)

利用者人数	9 男性 1 名	女性 8 名	
要介護1	2 名	要介護2 名	
要介護3	5 名	要介護4 2 名	
要介護5	名	要支援2 名	
年齢	平均 82.6 歳	最低 74 歳	最高 92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	足利日赤病院, 富士見台病院, 関内科医院, コム中島歯科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、春には菜の花が咲き誇る渡良瀬川の土手のほとりにあり、1,000坪を越える広大な敷地に季節ごとに咲く花木が植えられ、無農薬の野菜を育てている農園をつくっていたりと自然の中での暮らしを大切にしている。地域の人も招いた今年の夏祭りでは4,000発の花火を打ち上げ、地域の恒例行事になりつつある。代表者(兼管理者)が地元出身ということもあり、近隣の方々と肩肘張らない付き合いをしている。職員が膝をおって入居者と話をしている姿が見られ、くだけた雰囲気の中にも入居者を大切にしている様子がうかがえた。同じ建物内で認知症対応型デイサービス及び自主事業である宿泊を行っており、事業所全体として馴染みの関係づくり、また終末期ケアも含めた本人・家族の希望にそった支援に努めている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とそれ後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価の結果は運営推進会議及び家族会で報告した。介護計画の見直し頻度を多くしたり、職員が入居者と一緒に食事をするようにしたりといった改善を図っている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回は、職員に外部評価の実施について説明し、代表者(兼管理者)及び計画作成担当者が分担しながらまとめた。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	入居者、家族会の代表(複数)、自治会役員(複数)、市役所職員に参加してもらい、ホームの状況を報告したり行事等の運営の相談をしている。会議の後には茶話会なども実施している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	当初は毎月お便りを送付していたが、家族と顔を合わせて話をしたほうが良いという考えのもと毎月の利用料支払で家族が訪れる際などに預かり金の報告をしたり、介護計画の話をしたり、往診記録を見てもらったりしながら報告をしている。FAXを使った連絡など手段にも工夫をしている。3ヶ月ごとに広報誌を発行し、職員の異動や誕生日なども盛り込んでいる。何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努め、不満等も含め率直に言ってもらえる家族もいる。重要事項説明書には苦情相談窓口として管理者の自宅及び携帯電話の番号が記載されている。家族会があり、行事のときに協力してもらったりボランティア的にホームに来てくれる家族がいる、といった関係を築いている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	代表者が地元出身であり、また畑や庭の手入れを通して近隣の方々との肩肘張らない関係をつくっている。事業所として「あいさつ運動」を行っている。今年の夏祭りでは4,000発の花火を打ち上げ、地元の風物詩になりつつある。近所の天満宮の掃除をしたり、事業所で飼っている犬や猫の世話を小・中学生がしてくれたりもしている。自治会に加入している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員全員で考えた「『温かい家庭的な雰囲気大切にします』『人間としての1人1人の尊厳を守ります』『地域に根ざし、自立した生活を送るようにします。』『一緒に楽しく、ゆっくりと安全な生活を送ります』」を基本理念としている。今年の4月に見直しも検討したが、検討の結果、従前の理念を踏襲することとした。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回、職員全員参加で概ね17:00～19:00の時間帯で会議を開催し、その後に食事会をするなどして職員間の連携を図り、理念の共有・実践に努めている。事務所内に理念を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者が地元出身であり、また畑や庭の手入れを通して近隣の方々との肩肘張らない関係をつくっている。事業所として「あいさつ運動」を行っている。今年の夏祭りでは4,000発の花火を打ち上げ、地元の風物詩になりつつある。近所の天満宮の掃除をしたり、事業所で飼っている犬や猫の世話を小・中学生がしてくれたりもしている。自治会に加入している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議及び家族会で報告した。介護計画の見直し頻度を多くしたり、職員が入居者と一緒に食事をするようにしたりといった改善を図っている。今回は、職員に外部評価の実施について説明し、代表者（兼管理者）及び計画作成担当者が分担しながらまとめた。	○	評価の機会をより活かす意味で、今後自己評価を実施する際に職員の参加度合いを高め、それぞれの項目に対する見方や意見の違いなどについて話し合うなど職員の意識あわせの機会として活用していくことにも期待したい。

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、家族会の代表（複数）、自治会役員（複数）、市役所職員に参加してもらい、ホームの状況を報告したり行事等の運営の相談をしている。会議の後には茶話会なども実施している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が窓口となり市に相談事などを行っている。敬老会への補助金をもらっている。また、市の行事の際に事業所の駐車場を貸したり、広域の避難場所として想定されるなど市との連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	当初は毎月お便りを送付していたが、家族と顔を合わせて話をしたほうが良いという考えのもと毎月の利用料支払で家族が訪れる際に預かり金の報告をしたり、介護計画の話をしたり、往診記録を見てもらったりしながら報告をしている。FAXを使った連絡など手段にも工夫をしている。3ヶ月ごとに広報誌を発行し、職員の異動や誕生日なども盛り込んでいる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努め、不満等も含め率直に言ってもらえる家族もいる。重要事項説明書には苦情相談窓口として管理者の自宅及び携帯電話の番号が記載されている。家族会があり、行事のときに協力してもらったりボランティア的にホームに来てくれる家族がいる、といった関係を築いている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同じ建物内に認知症対応型のデイサービスセンターと自主事業としての泊まりのスペースがある。職員の担当制も取り入れ、事業所全体として職員との馴染みの関係をつくりながら利用・入居するように心がけている。また職員が毎日、入居者全員に必ず声をかけるように努めており、異動や離職があっても事業所全体として利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の定例会議の時間に管理者が講師となって研修を行ったり、ケアマネジャーが参加した研修の伝達を行っている。外部の講師を招いたり、他の事業所からの実習も受け入れている。グループホーム協会の研修や市内の研修に職員を参加させている。職員の担当制を取り入れており、ケアマネジャーや他職員と話し合いながら本人にあった支援を考えるということを大切にしている。	○	定例会議の際に毎回勉強会の時間を設けたり、ケアマネジャーが職員に対してスーパーバイズをするなど職員の育成に力を注いでいる様子がうかがえるので、今後更に外部の研修をより積極的に活用していくことにも期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会、高齢者小規模ケアネットワークに加入し、研修などに参加し情報交換等をしている。市の介護支援専門員連絡会にも参加している。管理者は、物品の共同購入など運営面でも協力体制がとれるような市内の事業者の連絡会や勉強会の必要性を感じている。他のグループホーム、特別養護老人ホームからの研修も受け入れている。	○	市内の事業者のネットワークづくりを期待したい。また、職員の外部研修の機会の確保という意味でも共同で研修を開催したり、お互いに行き来したりといった関係をつくっていくことに期待したい。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	同じ建物内のデイサービスと宿泊を利用して入居したり、入居者がデイサービスを利用するようになるということもある。建物内の位置変化の混乱を防ぐために居室の配置等に工夫がされていたり、職員の関わり方に配慮するなどして事業所全体として馴染める環境づくりに努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	広い敷地を活かした野菜づくりで入居者の知恵を借りたり、食事の下準備（皮むき、芽摘み等）を一緒にしたり、おやつを一緒につくったり、短歌づくり等を一緒にしたりと入居者と共に支えあう関係づくりをしている。		

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望等の表現が難しい場合には、本人の様子などから意向を慮ったり、家族から情報を得たりして本人本位の検討に努めている。また外出の際に誘ってみて、その時の本人の感情などを記録に残して活かしたりもしている。職員の担当制を取り入れている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員の担当制を取り入れており、本人・家族の希望や意見を踏まえ、毎月の定例会議の際や昼休みの30分程度の時間を利用して意見交換をしながらケアマネジャーが介護計画を作成している。特に終末期を支えたときには、医師や家族と相談しながら本人を支えるための介護計画の作成・支援を行った。	○	センター方式のアセスメントシートの活用、職員の担当制、普段入居者に関わる職員との意見交換、家族との話し合い、終末期を支える支援など本人本位の支援に努めている様子が見えるので、今後も本人の意向や希望を探り、本人らしい生活を支えていけるような計画のあり方を追求していくことに期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月モニタリングを行い、3ヶ月や6ヶ月の目標期間ごとに介護計画の見直しをしている。ケアマネジャーは「どう言った」「どう感じた」「どういう風にやってみようか」など職員の意見を聞きながら得られた情報を支援に活かそうと努めている。状態の変化があった時には、家族、医師、職員等と話し合い、その時々にあった介護計画の作成をしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物内にあるデイサービスや宿泊との連携を図り、事業所全体として入居者（利用者）の状態や状況に合わせた支援に努めている。少人数で自宅の周りをドライブしたりと希望に合わせた柔軟な支援にも努めている。		

醍醐の森川崎グループホーム


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じて、従来からのかかりつけ医や提携医師での受診を支援している。受診時には生活経過記録やバイタル測定記録を家族に渡したり、家族を通して医師との連携を図り、適切な医療が受けられるよう配慮している。提携医師は2週間に1回往診してくれるようになっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ずっと居てもらいたいという思いで関わっている。家族には入居して1年ぐらい経過し信頼関係ができてから、ホームでできること・できないことも含め徐々に話をしている。ホームで終末期を支えたことがあり、その際には職員体制を若干厚くし、話し合っ業務内容を見直すなど、併設するデイサービスセンターの看護師の協力も得ながら職員全体で支援を行った。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	定例会議などで尊厳や誇りを損なう言葉づかい等について話し合う機会をつくっている。職員は膝をおって入居者の耳元で話をしており、表情や態度なども穏やかで、明るい雰囲気の中にも入居者を大切にしている姿勢がうかがえた。書類を廃棄する際には中身が外から見えない袋で業者に出すなどプライバシーへの配慮をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れをリビングに目安として掲示しているが、起床や就寝など、それぞれの入居者のペースに合わせており朝食を遅めに摂る方もいる。夜間に入浴を支援することもある。職員からは「～しましょう」ではなく「～したいですか?」と本人に選んでもらう言葉かけを大切にしていることが聞かれた。		

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや食器拭き、おやつづくりなど入居者と一緒に行く機会もつくっている。食材は週に4～5回買い物に出かけたり、自前の農園からの産直品が食卓に並んでいる。外食を取り入れたり、パンバイキングや刺身の日など、食での楽しみも演出している。職員も一緒に食事をとっている。職員も同じ物を食べられるような配慮はされているが、自分で持ってきたものを食べる職員もいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきの入浴が多く、15:30ぐらいからの時間帯で支援している。夜間（20:00ぐらい）に支援することもある。ホームの浴槽は一般家庭にあるものと変わらないが、併設のデイサービスセンターには温泉の引いてある広い浴室があり、そちらで入浴することもある。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事の下ごしらえ、食器拭き、洗濯物たたみ、畑仕事、花壇の手入れ、縫い物、短歌づくり、習字、ドライブ、小旅行など役割・楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	敷地が広く、季節の花々が植えられていたり、バラ園があったり、犬を飼っていたりと戸外に出るきっかけとなる環境が整えられている。散歩や買い物などのほか小旅行などの行事的な外出の機会もつくっている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのもと、日中は玄関に鍵を掛けない。広い敷地の庭園、畑を管理している職員が外で作業をしていることが多く、また管理者も外で作業をすることも多く、建物外での見守りもできる体勢になっている。		

醍醐の森川崎グループホーム

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成しており、年に2回の訓練を実施している。自主訓練では夜間を想定し、夕方から実施したこともある。自治会の避難訓練にも参加している。敷地が広いことから自治会の避難訓練を当事業所の敷地で行うことも検討されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録をとりながら、適切な食事・水分を摂取できるように支援している。夜間にすぐに水が飲めるように居室にペットボトルを用意したりもしている。体重測定を実施し、体重に増減がある場合には医師に相談している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には花が飾られたり、中庭が望めるようになっていたり、外に出れば手入れされた花木があったりと季節感を感じられるつくりになっている。ダイニングテーブルのほかにソファースペースがあり、入居者がくつろげるようになっている。職員の声も含めた音、光の加減等も適切に配慮されており、また室内に空気のよどみ等はなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、たたみ部分とフローリング部分を組み合わせられた形になっており、使い慣れた家具等を持ってきてもらうようにしている。居室でお茶会などをしたりすることもあるなど、居心地良く過ごせるような居室づくりの配慮をしている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。